

和歌山病院での実習を終えて



桑田 和朋

今回、和歌山県立医科大学呼吸器内科の実習として、和歌山病院で学ぶ機会をいただきました。2日間という限られた時間ではありましたが、普段勉強している大学病院とはまた違う環境の中でさまざまなことを学ぶことができました。

南方病院長のセミナーでは今まで自分の中で苦手意識を持っていた胸部レントゲンの正常画像の読影について教えていただきました。ただ漠然と覚えるのではなく、しっかりと理論立てて考えて見るということを教わりました。今後、臨床で何度もレントゲンの読影をする機会があると思いますが、今回得たことを活かしていきたいと思います。また、レントゲン読影以外にもきっちりと頭を使って理論立てて考えることで、より多くのことを学んでいこうと思いました。

和歌山病院には結核病棟があるということで、私自身初めて、結核病棟を見学させていただきました。駿田副病院長の結核についてのセミナーで、結核の感染様式をしっかりと理解できたこともあり、結核病棟もなぜそのようなつくりになっているかが理解できました。接触時には結核患者はサージカルマスクを、医療スタッフや面会者はN95を着用すれば、感染は防げるということ、臨床現場を見たことで、再確認できました。

最後になりましたが、今回お世話になりました先生方、スタッフの方々、ありがとうございました。この二日間で学んだことをいかしてこれからも勉強に励んでいきたいと思えます。